

## 途上国アルバム：ミャンマー

清水由賀 SHIMIZU, Yuka  
国際労働機関パートナーシップ局 JPO

現職の直前、私は [AAR Japan \(難民を助ける会\)](#) のミャンマー・ヤンゴン事務所駐在員として 2024 年 1 月までヤンゴンに駐在をしていた。多くの波乱と心打つ出会いに満ちたヤンゴン駐在員生活を、写真とともに振り返りながら皆様にご紹介したい。なお、街の様子等を撮ることは危険を伴うため滞在中ほぼ撮影が出来ず、ここに掲載の写真も屋内の写真が主となっていることをご理解いただきたい。

私が AAR Japan に入職したのは 2022 年 2 月、前年に軍事クーデターが起きてからすでに 1 年が経過した後であった。政変に伴う政治・経済・社会的な混乱は、クーデター発生直後はもちろんのこと、その後現在に至るまで、刻々と悪化の一途を辿っている。私の駐在員生活は、その只中に重なっていた。まず入職後の 1 年間、軍事政権が国際 NGO 職員に対するビザ発給の締め付けを強めていたことから、ビザを取得することが出来ずに東京の事務所からテレワークで 1 年間駐在業務を行っていた。実際にヤンゴンに赴任することが出来たのは、2023 年 1 月下旬のことであった。初めてヤンゴン空港に降り立ち、ようやく現地スタッフと対面で会い一緒に仕事が出来ることへの期待と、治安や社会情勢への不安とが入り混じるなか、住宅が見つかるまでの間滞在したホテルから見た、燃えるように赤い夕焼けは、今も脳裏に焼き付いている (写真 1)。

現地から離れている時は、日々起きる爆発事件、殺人事件、地方で広がる空爆や戦闘、絶えず増え続ける避難民、経済の混乱と治安の悪化に伴い増加する強盗・殺人事件など、悲惨なニュースばかりに注意が向いていた。もちろんそれらも現実起きていたことではあるが、一方でヤンゴン事務所での日々は、22 名の現地スタッフ、一学期 27 名の職業訓練校訓練生、同じくヤンゴンに滞在していたパアン事務所の駐在員 2 名、そして 2 匹の猫に囲まれて、笑顔と明日をより良くしようというエネルギーに満ちた日々でもあった (写真 2、3)。



(写真 1) 赴任直後に滞在したホテルから (写真 2) 事務所のいたずら好き猫シュエロン (写真 3) ヤンゴン事務所スタッフたちと

ヤンゴン市内中心部は、ミャンマー国内の他の地方とは全く異なる世界だと表現する人がいた。なぜならそこには、デパートがあり、レストランがあり、カフェがあり、仕事があり、娯楽があり、政府機関に近づいたり（爆発事件に巻き込まれる可能性があるため）、深夜に出歩くことさえしなければ、基本的には命の危険を感じることなく「日常」を過ごすことができるためである。しかし、その「日常」も、日々刻一刻と困難さを増していった。その変化に対応することが、駐在員として最も重要な業務のうちの一つとなっていた。

**AAR Japan** ヤンゴン事務所は障がい者支援を行っており、身体障がい者向け職業訓練校の運営、インクルーシブ教育の推進、障がい児の教育・リハビリ支援、そして障がいをもつ生活困窮者の生活支援を行っていた。いずれの事業を行うにも、資金・食糧・ガソリン・電気等は必要となる。そうした事業運営の血液となるものを確保することが、最重要任務の一つとなっていた。在任中、ミャンマー・チャットの対ドルレートは継続的に下落、銀行業務は日々複雑さを増し、お米・油といった食糧品価格・ガソリン価格は高騰を続け、計画・無計画を問わない停電により電気供給は不安定、それを補完するための発電機の稼働にも困難が伴った。

ミャンマー・チャットの対ドルレートは 2022 年 4 月から公定レートが 1 ドル=1850 チャットで導入され、その後 2100 チャットに引き下げられたものの、市場での実勢レートは急落を続け、2023 年 11 月時点で 3400 チャットにまで下がっていた。2023 年 12 月に公定レートは廃止されたが、対ドル為替レートはさらに下がり、2024 年 8 月には一時 1 ドル=5000 チャットにまで下がったと聞いている。ガソリン価格の高騰、対ドルチャット安の進行に伴い事業運営に必要なあらゆる物の価格が高騰し、全寮制である私たちの職業訓練校訓練生に提供する食事や生活困窮者向けに配付をしていたお米の価格は、2022 年 11 月 1 日時点で 1kg あたり 1600 チャットであった商品が、2023 年 12 月 14 日時点で 3100 チャットと 2 倍になっていた。お米・油はミャンマー料理に欠かせず大量に消費するため、それら

の価格上昇は当然一般家庭にも、そして私たちのような活動をする団体にも打撃を与えた（写真 4、5、6）。また、インクルーシブ教育を推進するために進めていたバリアフリー工事にかかる費用も 2 倍になった。調達を担当する事務所車両運転手とは毎朝、ミャンマー・チャットの対ドルレート、ガソリンの価格、発電機の状態を含めた電気供給の状況、昨日起きた事件の話しをすることが日課となっていた。



(写真 4、5) デパートに並ぶお米・油。



(写真 6) ミャンマー人スタッフ宅の料理

これほど難しい状況の中でも、ミャンマー国内で活動続ける NGO、企業、個人事業主の方々が多くいたこと、そのような方々に出会えたことは、私の胸を強く打った。日系 NGO の横のつながり、大使館の支援、JICA の継続的な活動、NGO と企業との連携、ソーシャル・ビジネスを個人で行う方々、ミャンマーの人びとのためにという思いを持ちながら企業活動を行う方々…。すべての在ヤンゴン・在ミャンマーの人びとが等しく晒される政治・経済・社会的混乱のなか、逆境を乗り越えるために知恵を絞りながら、それぞれの仕事を続けていた。そうした方々の仕事と意思に、私自身の事務所運営そしてヤンゴン生活も助けられた。老朽化して故障を繰り返す発電機を買い替えなければならなかった際、日本製家電を輸入販売する企業をミャンマーで複数興した日本人経営者には、日本製新品の発電機を良心的な価格で販売頂いた（写真 7）。NGO に従事しながらも個人でソーシャル・ビジネスを興しミャンマー雑貨店を運営しておられる方や、ミャンマー布を使いミャンマー人スタッフにより仕立てを行う縫製店を営んでおられる方、またお土産店運営やアーティスト活動をしておられる方には、当職業訓練校の卒業生をスタッフとして積極的に採用頂いた（写真 8、9、10）。また、当会の活動に関心を持って見学に来てくださったり、さらにはご寄付を下さった方々も数知れない。



(写真 7) [Shwe Bagyi](#) から購入した日本製発電機



(写真 8) 雑貨店 [dacco.myanmar](#)



(写真 9) [HARICO](#)



(写真 10) 当会訓練校卒業生が作成したポーチ（右上）を含む、日本人会春祭りで販売されていた雑貨・コーヒー

そしてミャンマーで何より私が心を打たれたのは、一緒に働いていたミャンマー人スタッフ、ミャンマー全土から集まった職業訓練校訓練生たちの、忍耐強さと勤勉さであった。日々悪化する状況の中、かれらは淡々と自分たちにできることを、笑顔を絶やさずに続けた。20 年以上にわたる波乱に満ちた環境のなかで、日々自分たちにできることを一つ一つ積み重ね、個人としての成長、事業全体の向上、そして障がい者のエンパワーメントに取り組むかれらの姿から、どんな状況のなかでも人は前を向いて歩む力を持っている。そう学んだ。今も、かれらの安全と健康を、願って止まない。(写真 11、12、13)



(写真 11) [AAR Japan](#) 職業訓練校訓練生たち



(写真 12) 国民的料理・モヒンガー



(写真 13) 仏壇に捧げられるジャスミンの花